

Title	有末賢略歴・主要研究業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2016
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学：人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.81 (2016. ) ,p.119- 126
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2016年度定年退職者略歴・著作目録一覧
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000081-0119">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000081-0119</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 2016年度定年退職者略歴・著作目録一覧

### 有末賢（ありすえ けん）

生年月日：1953年7月20日生 63歳

#### [学歴]

1972年3月 東京都立大泉高等学校卒業  
1973年4月 慶應義塾大学法学部政治学科入学  
1977年3月 同大学同学部卒業  
同年4月 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程入学  
1979年3月 同大学院修士課程修了  
同年4月 同大学院社会学研究科社会学専攻博士課程入学  
1982年3月 同大学院博士課程単位取得満期退学

#### [学位]

法学士（慶應義塾大学） 1977年3月31日授与  
法学修士（慶應義塾大学） 1979年3月31日授与  
修士論文名：「批判的社会学序説」  
博士（社会学）[慶應義塾大学] 2001年2月27日授与  
博士論文名：「生活史の社会学—その方法と課題—」

#### [所属学会及び入会年月]

関東社会学会 1977年6月入会（理事 [通算4期]，会長：2009～2011年）  
日本社会学会 1977年10月入会（通算3期：理事：2012～15年：社会学評論編集委員長）  
日本民族学会（現・日本文化人類学会 1979年4月入会）  
地域社会学会 1981年5月入会（通算4期理事：現在：学会賞選考委員）  
日本生活学会 1979年6月入会（幹事：通算2期，理事：通算4期：現在：副会長）  
日本都市社会学会 1982年4月入会（通算2期：理事）  
日本移民学会 1995年11月入会  
日本都市学会 1999年7月入会  
国際社会学会（ISA） 1985年9月入会  
日本オーラル・ヒストリー学会 2004年9月入会（理事・編集委員長通算4期・現在：会長）  
三田社会学会 1985年入会，1994年～現在，幹事（現在：会長）

## [職歴]

1982年4月 慶應義塾大学法学部専任講師  
(1985年4月～87年3月 英国エセックス大学社会学部訪問研究員, 福澤基金にて留学)  
1988年4月 慶應義塾大学法学部助教授  
(1991年8月～92年7月 中国・北京日本学研究センター客員助教授, 国際交流基金にて出張)  
1996年4月慶應義塾大学法学部教授  
(1998年3月～99年3月英国ケント大学社会学部及びオーストラリア・メルボルン大学, 日本研究部訪問教授 慶應義塾大学派遣留学にて)  
2016年3月 慶應義塾大学(選択)定年退職  
2016年4月 慶應義塾大学名誉教授  
2016年4月 亜細亜大学都市創造学部教授

## [非常勤講師他]

1983年4月～84年3月 立教大学社会学部講師 演習Ⅰ・Ⅱ  
1987年10月～88年9月 (株)東急総合研究所第1期研究会講師  
1989年2月 お茶の水女子大学大学院(人文科学研究科修士課程)講師社会学特論Ⅱ 集中講義  
1991年4月～7月 明治学院大学社会学部講師社会調査論, 演習Ⅰ・Ⅱ  
1993年1月～94年2月 神奈川県自治総合研究センター講師  
1993年1月～12月 (株)東急総合研究所第6期研究会講師  
1993年4月～1996年3月 明治学院大学社会学部講師  
1993年4月～1994年3月 専修大学文学部講師社会学特殊Ⅱ  
1993年8月～94年3月 社会経済国民会議エネルギー問題特別委員会政策専門部会委員  
1993年10月～94年3月 小平市立仲町公民館市民講座講師  
1993年12月～94年9月 (株)東急総合研究所第7期研究会講師  
1996年12月～98年3月 とちぎ総合研究所「新首都構想研究会」研究委員  
1998年1月 小平市立中央公民館シルバー大学講師  
1997年4月～9月 埼玉大学教育学部(家庭科教育学専攻)講師生活文化論  
1999年4月～2000年9月 調布学園短期大学人間福祉学科講師 社会学  
2000年4月～2001年3月 日本大学文理学部社会学科講師(地域社会学, 社会学応用演習Ⅰ)  
2000年9月～2001年3月 東京大学文学部社会学科講師 社会学特殊  
2001年6月～2002年8月 平成14年度国家公務員採用Ⅰ種試験(人間科学Ⅱ)試験専門委員(人事院)  
2002年11月～2007年11月 東京都港区社会教育委員  
2009年6月～2012年3月 東京都大田区男女平等推進区民会議委員(後半2年: 座長)

[賞罰] 2001年度日本都市学会賞(奥井記念賞)受賞受賞対象:

『現代大都市の重層的構造』(ミネルヴァ書房, 1999年刊行)

## [業績]

## I. 編・著書

- ・川合隆男・原田勝弘・佐藤茂子・霜野寿亮・有末賢・鹿又伸夫共著『社会学—現代社会学の課題—』勁草書房, 1984年
- ・石川弘義・津沢聡広・有末賢・佐藤健二・鳥崎征介・藺田碩哉・鷹橋信夫・田村穰生・寺出浩司・吉見俊哉編『大衆文化事典』弘文堂, 1991年
- ・有末賢・霜野寿亮・関根政美編著『社会学入門』弘文堂, 1996年
- ・有末賢・大石裕共著『CDレッスン社会学・マス・コミュニケーション論入門』慶應義塾大学通信教育部, 1997年
- ・有末賢『現代大都市の重層的構造—都市化社会における伝統と変容—』ミネルヴァ書房, 1999年
- ・有末賢・内田忠賢・倉石忠彦・小林忠雄編集『都市民俗生活誌』全3巻, 明石書店, 2002年6月～2006年3月
- ・有末賢・関根政美編『戦後日本の社会と市民意識（叢書21COE-CCC多文化世界における市民意識の動態 7）』慶應義塾大学出版会, 2005年3月
- ・大谷幸夫・北川隆吉【監修】『講座日本の都市社会第5巻』北川隆吉・有末賢【編著】『都市社会研究の歴史と方法』文化書房博文社, 2007年6月
- ・大谷幸夫・北川隆吉【監修】『講座日本の都市社会第3巻』有末賢・北川隆吉【編著】『都市の生活・文化・意識』文化書房博文社, 2007年8月
- ・渡辺秀樹・有末賢編『多文化・多世代交差世界における市民意識の形成（叢書21COE-CCC多文化世界における市民意識の動態36）』慶應義塾大学出版会, 2008年1月
- ・倉石忠彦・内田忠賢・有末賢・小林忠雄編集『都市民俗基本論文集』全4巻+別冊2, 岩田書院, 2009～12年
- ・有末賢『生活史宣言—ライフヒストリーの社会学—』慶應義塾大学出版会, 2012年8月
- ・浜日出夫・有末賢・竹村英樹編著『被爆者調査を読む—ヒロシマ・ナガサキの継承—』慶應義塾大学出版会, 2013年3月
- ・澤井敦・有末賢編著『死別の社会学』青弓社, 2015年5月

## II. 学術論文

- ・「批判的社会学の知識構造—パラダイム概念を軸として—」『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』第20号 37-45頁, 1980年2月
- ・「第五章 修験寺院の社会的機能」宮家準編『修験者と地域社会—新潟県南魚沼の修験道—』所収155-188頁, 名著出版 1981年9月
- ・「都市民俗研究への一視角—新たな分析視角の模索—」『哲学』（慶應義塾大学三田哲学会）第73集 101-123頁, 1981年12月
- ・「都市祭礼の重層的構造—佃・月島の祭祀組織の事例研究—」『社会学評論』（日本社会学会）第33巻第4号（132号）37-62頁, 1983年3月
- ・「生活史研究の視角」『慶應義塾創立125年記念論文集法学部政治学関係』所収, 345-366頁, 1983年11月

- ・「地域社会研究と地域文化論—現代都市社会学の転回—」『法学研究』（慶應義塾大学法学研究会編）第57巻第8号 1-27頁，1984年8月
- ・「生活研究とライフ・ヒストリー—生活史研究から—」川添登編『生活学へのアプローチ』所収 49-68頁，ドメス出版 1984年12月
- ・「インナーシティ問題と歴史的な生活環境—東京佃・月島の祭礼集団を通して—」『法学研究』第58巻第2号 167-196頁，1985年2月
- ・「ロンドン—ヨーロッパの都市」藤田弘夫・吉原直樹編著『都市—社会学と人類学からの接近—』所収 101-122頁 ミネルヴァ書房，1987年4月
- ・「生活史と「生の記録」研究—ライフ・ヒストリーの解釈をめぐって—」『法学研究』第61巻第1号 233-262頁，1988年1月
- ・「都市民俗のダイナミズム—都市化と社会変動—」岩本道弥・倉石忠彦・小林忠雄編『都市民俗学へのいざないⅡ 情念と宇宙』所収，261-280頁，雄山閣出版，1989年5月
- ・「大都市構造の変動と「東京問題」—ロンドンと東京の都心居住をめぐって—」『法学研究』第64巻第2号 1-31頁，1991年2月
- ・「東京化と地域社会」今田高俊・友枝敏雄編『社会学の基礎』所収，207-235頁，有斐閣Sシリーズ 1991年5月
- ・「都市社会と意味の重層性—都市における構造と意味—」地域社会学会編『地域社会学会年報第五集 都市・農村の新局面』所収 59-89頁 時潮社1991年5月
- ・「ウォーターフロント開発と佃祭りの変貌」『慶應義塾大学日吉紀要言語・文化・コミュニケーション』第9号 14-43頁，1991年12月
- ・「質的社会学としての生活史研究」『法学研究』第65巻第1号，259-285頁，1992年1月
- ・「下町の生活世界—重層的都市文化への生活史のアプローチ—」森岡清志・松本康編『都市社会学のフロンティア2生活・関係・文化』所収，197-222頁，日本評論社 1992年6月
- ・「現代日本社会と「ポスト・モダン」状況」『日本学研究2』（北京日本学研究中心編）229-251頁，科学技術文献出版社（中華人民共和国：北京）1992年12月
- ・「〈意味の社会学〉と生活史研究」『社会学年誌』（早稲田社会学会）No. 34，61-74頁，1993年3月
- ・「生活史の社会学」中畠邦・松平誠編『講座生活学第3巻生活史』所収 61-87頁，光生館1993年9月
- ・「現代大都市の理論的地平——世界都市化における〈空間〉の理論——」『法学研究』第67巻第3号 1-23頁，1994年3月
- ・「東京・下町の生活文化における「伝統と変化」」『季刊家計経済研究』1994・秋（通巻第24号），財団法人家計経済研究所，21-29頁，1994年10月
- ・「戦後日本社会の価値意識の変化—余暇と自己実現を中心に—」『法学研究』第67巻第12号，55-88頁，1994年12月
- ・「彷徨するアイデンティティー—ライフ・ドキュメントとしての日記と作品—」中野卓・桜井厚編『ライフ・ヒストリーの社会学』所収，167-190頁，弘文堂，1995年2月
- ・「移民研究と生活史研究—日系人・日系社会研究の方法論的課題—」柳田利夫編『アメリカの日系人—歴史・都市・生活—』所収，229-256頁，同文館，1995年3月
- ・「生活史の方法論」栗田宣義編『メソッド／社会学：現代社会を測定する』所収，115-131頁，川島

書店, 1996年3月

- ・「ライフヒストリーにおける記憶と時間」『三田社会学』創刊号（三田社会学会）67-82頁, 1996年7月
- ・「日本出稼ぎとエスニシティ変容」柳田利夫編著『リマの日系人—ペルーにおける日系社会の多角的分析—』所収, 131-159頁, 明石書店, 1997年3月
- ・「中国の都市社会におけるインフォーマル・グループ」『教養論叢』（慶應義塾大学法学研究会編）第108号 [林嘉言先生退職記念特集号], 53-67頁, 1998年3月
- ・「再帰性と自己決定権—ポストモダンと日本社会—」田中宏・大石裕編『政治・社会理論のフロンティア [慶應義塾大学法学部政治学科開設百年記念論文集]』所収, 251-283頁, 慶應義塾大学出版会, 1998年10月
- ・「都市民俗学と都市文化」宮家準編著『民俗宗教の諸相—宮家準先生退職記念論文集—』所収, 93-107頁, 春秋社, 1999年3月
- ・「民衆の生活世界—都市民俗と都市文化—」藤田弘夫・吉原直樹編『都市社会学』所収, 138-156頁, 有斐閣ブックスシリーズ, 1999年7月
- ・「生活誌研究と奥井復太郎」川合隆男・藤田弘夫編『都市論と生活論の祖型—奥井復太郎研究—』所収, 137-158頁, 慶應義塾大学出版会, 1999年10月
- ・「生活史調査の意味論」『法学研究』第73巻第5号, 1-27頁, 2000年5月
- ・「現代の都市空間におけるメディアと祝祭」日本生活学会編『生活学第24冊◎祝祭の100年』所収, 261-282頁, ドメス出版, 2000年9月
- ・「都市化の構造と『郊外化』現象」『都市問題』（東京市政調査会）第93巻第5号, 2002年5月号「特集 郊外化と都市社会」3-17頁, 2002年5月
- ・「戦後日本社会のアイデンティティ論—重層的アイデンティティに向けて—」『法学研究』第77巻第1号, 「川合隆男教授退職記念号」2004年1月, 77-102頁。
- ・「戦後日本の市民意識と社会科学」有末賢・関根政美編『戦後日本の社会と市民意識』所収, 1-19頁, 慶應義塾大学出版会, 2005年3月
- ・「ライフヒストリーにおけるオーラル・ヒストリー」『日本オーラル・ヒストリー研究』創刊号（日本オーラル・ヒストリー学会編）50-64頁, 2006年3月
- ・「都市空間の匿名性と若者の社会関係—フラグメンテーションと下位文化—」『日本都市社会学会年報24 特集 都市と若者』（日本都市社会学会編）42-55頁, 2006年9月
- ・「現代社会における都市と若者—匿名性と下位文化—」『法学研究』第79巻第10号, 2006年10月, 1-24頁。
- ・「死別の社会学序説」山岸健 [責任編集] 草柳千早・澤井敦・鄭 暎恵 [編集]『社会学の饗宴 I 風景の意味—理性と感性—』所収, 3-25頁, 三和書籍, 2007年2月
- ・「第7章 日本の都市社会研究」大谷幸夫・北川隆吉【監修】『講座 日本の都市社会 第5巻』北川隆吉・有末賢【編著】『都市社会研究の歴史と方法』所収, 文化書房博文社, 193-218頁, 2007年6月
- ・「総論都市生活・文化・社会意識の特徴」大谷幸夫・北川隆吉【監修】『講座日本の都市社会第3巻』有末賢・北川隆吉【編著】『都市の生活・文化・意識』19-48頁, 文化書房博文社, 2007年8月
- ・「都市社会研究の系譜と都市社会学の射程—何が見落とされてきたのか—」『法学研究』第80巻第9

号, 2007年9月, 1-29頁。

- ・「第1章総論多世代交差世界と市民意識」渡辺秀樹・有末賢編『多文化・多世代交差世界における市民意識の形成(叢書21COE-CCC多文化世界における市民意識の動態36)』所収, 1-17頁, 慶應義塾大学出版会, 2008年1月
- ・「個人化とコミュニティ概念の変容—古都・鎌倉のライフスタイル—」慶應義塾大学学部編『慶應義塾創立150年記念法学部論文集慶應の政治学政治・社会』所収, 27-48頁, 慶應義塾大学出版会, 2008年12月
- ・「戦後社会調査史における被爆者調査と記憶の表象」『法学研究』第83巻2号, 2010年2月, 39-72頁
- ・「生活史の『個性』と『時代的文脈』」『法学研究』第84巻第2号, 2011年2月, 25-51頁
- ・「生と死のライフヒストリー—相互・循環・一回性—」『法学研究』第84巻6号, 2011年6月, 77-106頁
- ・「序章生活史宣言の意図」有末賢『生活史宣言—ライフヒストリーの社会学—』所収, 1-40ページ, 慶應義塾大学出版会, 2012年8月
- ・「第1章 戦後被爆者調査の社会調査史」浜日出夫・有末賢・竹村英樹編著『被爆者調査を読む—ヒロシマ・ナガサキの継承—』所収, 1-34頁, 慶應義塾大学出版会, 2013年3月
- ・「語りにくいこと—自死遺族たちの声—」『日本オーラル・ヒストリー研究』第9号, 2013年9月, 36-46頁
- ・「ジェンダー・セクシュアリティとオーラル・ヒストリー」山田富秋・好井裕明編『語りが拓く地平』所収, 195-213頁, せりか書房, 2013年10月
- ・「配偶者との死別と再婚」澤井敦・有末賢編著『死別の社会学』所収, 118-142頁, 青弓社, 2015年5月
- ・「集合的記憶と個人的記憶—記憶の共有性と忘却性をめぐって—」『法学研究』第89巻2号(関根政美先生退職記念号)所収, 19-40頁, 2016年2月
- ・「公募特集「現代社会と生きづらさ」に寄せて」(有末賢・大山小夜共著)『社会学評論』264号, 第66巻第4号, 446-459頁, 2016年3月

### III. 翻訳

- ・Gary Easthope, A History of Social Research Methods, Longman Group Ltd. 1974 G. イーストホープ(川合隆男・霜野寿亮監訳)『社会調査方法史』[第4章参与観察法と生活史法] 104-126頁慶應通信, 1982年12月

### IV. 報告書

- ・霜野寿亮・佐藤茂子・田中重好・有末賢「[月島調査]の周辺とその後」『法学研究』第54巻第8号「研究ノート」46-90頁 1981年8月
- ・地域生活研究会編『大都市における社会移動と地域生活の変化』[歴史研究編][社会調査編]昭和55年度, 56年度 文部省科学研究費による補助金総合研究(A)の報告書 1982年3月
- ・倉沢進『近代日本都市計画関連年表』(協力者: 有末賢・桜井厚)国連大学人間と社会の開発プログラム研究報告技術の移転・変容・開発—日本の経験プロジェクト「技術と都市社会研究部会」国際連



合大学, 1982年5月

- ・『中央区佃島地区文化財調査報告』東京都教育委員会 1984年1月
- ・門脇厚司 [研究主査] 『生活水準の歴史的推移』総合研究開発機構NIRA OUT-PUT 9-10頁, 161-189頁, 1985年3月
- ・『世代交代からみた21世紀の郊外住宅地問題の研究—戦前及び戦後の郊外住宅地の変容と将来展望—』環境文化研究所〈環境文化シリーズ〉(大坂彰・山岡靖・和田清美・有末賢)(財)環境文化研究所 1985年12月
- ・『都市の変容とライフスタイルへのアプローチ—都市研究会—』TRI-NETWORK研究報告88-3 (株)東急総合研究所 1989年2月
- ・有末賢「首都圏の居住環境と社会的分離に関する研究」『住宅・土地問題研究論文集』[第19集] 101-124頁, 財団法人日本住宅総合センター 1992年7月
- ・『東京圏一極集中の行方を占う—東京圏研究会—』「東京圏一極集中化の現状と将来の展望」[東京圏研究会]を終えて TRI-NETWORK研究報告94-3 (株)東急総合研究所 1994年3月
- ・有末賢「社会学からみた余暇研究の系譜」『余暇研究の系譜—1993年度基礎文献プロジェクト研究報告—』財団法人日本レクリエーション協会余暇生活開発・レクリエーション総合研究所1994年6月
- ・『都市居住の行方を占う—都市生活者ライフスタイル研究会—』TRI-NETWORK研究報告94-6 (株)東急総合研究所 1994年12月
- ・『台場コミュニティ調査報告書』(台場コミュニティ調査研究会編) 梅沢印刷所, 1997年11月
- ・『近代鎌倉における『鎌倉らしさ』の構築』(鎌倉研究会 [代表: 有末賢] 編) 友遊書房(松尾浩一郎), 2004年5月

#### V. 書評・解説

- ・松本通晴編『地域生活の社会学』間場寿一編『地域政治の社会学』井上俊編『地域文化の社会学』『法学研究』第57巻第7号 101-111頁 1984年7月
- ・小林茂・寺門征男・浦野正樹・店田廣文編著『都市化と居住環境の変容』『法学研究』第61巻第6号 136-146頁 1986年6月
- ・今田高俊『自己組織性—社会理論の復活—』『慶應キャンパス』第238号, 1988年12月5日
- ・今田高俊『自己組織性—社会理論の復活—』『法学研究』第62巻第4号, 156-163頁, 1989年4月
- ・中田俊造『娯楽の研究』『教育上より見たる娯楽と休養』(上・下)解説 石川弘義監修『余暇・娯楽研究基礎文献集』別巻 解説書 119-124頁, 151-157頁, 大空社 1990年4月
- ・倉石忠彦『都市民俗論序説』『日本民俗学』(日本民俗学会) 183号 98-102頁, 1990年8月
- ・藤田弘夫『都市と国家—都市社会学を越えて—』『法学研究』第63巻第10号, 121-127頁, 1990年10月
- ・上田喜三郎『陶工職人の生活史—民芸牛ノ戸焼親方の生涯—』『週刊読書人』1992年4月6日
- ・奥田道大『都市と地域の文脈を求めて—21世紀システムとしての都市社会学—』『週刊読書人』1993年3月22日
- ・高橋勇悦『東京人の研究—都市住民とコミュニティー—』『都市高齢化と地域福祉日本都市社会学会年報15』169-172頁, 1997年6月



- ・中野卓『鰯網の村の四〇〇年—能登灘浦の社会学的研究—』『シティズンシップと再生する地域社会 地域社会学会年報第10集』187-188頁, ハーベスト社, 1998年5月
- ・「書評リプライ: 意味の重層性と現代都市文化」『日本都市社会学会年報』第18号, 園部雅久「書評: 有末賢『現代大都市の重層的構造』」129-134頁, 2000年7月
- ・松田素二『抵抗する都市—ナイロビ移民の世界から—』『市民と地域—自己決定・協働, その主体— 地域社会学会年報第13集』235-6頁, ハーベスト社, 2001年5月
- ・中川清『日本都市の生活変動』『三田学会雑誌』第94巻第3号, 183-186頁, 慶應義塾経済学会, 2001年10月
- ・中野紀和『小倉祇園太鼓の都市人類学—記憶・場所・身体—』『三田社会学』第14号, 129-132頁, 2009年7月
- ・田中重好『地域から生まれる公共性—公共性と共同性の交点—』『三田社会学』第16号, 124-127頁, 2011年7月
- ・橋本和孝『地域社会研究と社会学者群像—社会学としての闘争論の伝統—』『地域社会学会年報』第25集, 189-190頁, 2013年5月
- ・「書評リプライ: ドキュメントとストーリー—水野節夫氏の拙著書評に寄せて—」水野節夫「有末賢『生活史宣言』を読む」『三田社会学』第18号, 146-150頁, 2013年7月

## 関根政美 (せきね まさみ)

1951 (昭和26) 年1月26日生まれ (65歳)

### 〈教育歴〉

- 1970年4月 慶應義塾大学法学部政治学科入学
- 1974年3月 慶應義塾大学法学部政治学科卒業
- 1974年4月 慶應義塾大学法学研究科政治学専攻修士課程入学
- 1976年3月 慶應義塾大学法学研究科政治学専攻修士課程修了
- 1976年4月 慶應義塾大学社会学研究科博士課程入学
- 1979年3月 慶應義塾大学社会学研究科博士課程単位取得退学
- 1989年3月 社会学博士 (慶應義塾大学) 取得 (社会学研究科)

### 〈職歴〉

- 1979年 4月～1983年3月 慶應義塾大学法学部専任講師 (産業社会論・社会学・社会変動論担当)
- 1980年 7月～1983年3月 オーストラリア, ニューサウスウェールズ州立大学経済・商業学部訪問研究員 (組織行動学科所属)
- 1984年 4月～1989年3月 慶應義塾大学法学部助教授
- 1984年 4月 研究会・現代オーストラリア社会論担当 (政治学科専門科目)
- 1985年10月～1989年9月 大学国際センター学習指導主任